

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

Table with 4 rows: 事業所番号 (0194700431), 法人名 (社会福祉法人 三章会), 事業所名 (グループホームりらく大成), 所在地 (河西郡芽室町東芽室南2線16-2-2), 自己評価作成日 (平成29年1月5日), 評価結果市町村受理日 (平成29年3月28日)

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

個人個人が自由に、そのらしさを大切にした利用者職員が、一緒に生きがいのある生活を送れるように毎日を過ごしていけるようにします。

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

Table with 2 columns: 基本情報リンク先URL, http://www.kajigokensaku.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_2016_022_kani=tr ue&JigvosyoCd=0194700431-00&PrefCd=01&VersionCd=022

【評価機関概要(評価機関記入)】

Table with 3 rows: 評価機関名 (特定非営利活動法人 福祉サービス評価機構Kネット), 所在地 (札幌市中央区南6条西11丁目1284番地4 高砂サニーハイツ401), 訪問調査日 (平成29年2月25日)

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

グループホームりらく大成は、母体法人の運営する老人保健施設に隣接する1ユニット9名の事業所である。木の温もりにあふれる広々とした一部2階建ての建物で利用者職員がそれぞれの価値観や個性を認め合いながら生活を送っている。法人7ユニットのグループホームが合同で研修を行い職員の資質向上に取り組み、理念を踏まえたサービスを提供できるようにしている。また、利用者の楽しみである食と気分転換を兼ねた外出支援にも取り組んでいる。事業所が位置する芽室町は風光明媚な観光地が多く、四季折々の風景と旬の地元産の食材などが五感を刺激し利用者の生活を豊かなものにしている。

Table with 4 columns: 項目, 取り組みの成果 (該当するものに○印), 項目, 取り組みの成果 (該当するものに○印). Rows 56-62 detailing service outcomes and staff performance.

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	利用者の皆さんが、自分らしさを失わず日々を過ごせるように、介護の見直しをしい良いケアを実践しています。	事業所の理念を定め、利用者が書いた理念の額を居間に掲示している。理念の実現と共に心身の痛みの緩和、心の癒し、生活の質の向上を目指し職員がケアに当たっている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	利用者の居住していた地域の老人会への参加、個人的に美容室や買い物へ行っています。	法人のグループホーム合同で、敬老会に鞍馬を呼ぶなど地域の協力を得ている。事業所の夏祭りには出店を出したり、利用者が家族と老人会に出かけ自宅に泊まるなど、交流を継続している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	同法人勉強会への参加、地域で開かれているメモロカフェに参加させて頂いています。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月に一度運営推進会議を行い、ご家族への報告、連絡をしています。	運営推進会議は2か月ごとに開催し、家族への参加の呼びかけを行っている。行事の様子や事故報告も行き、助言を受けている。参加できない家族にも事業所便りと一緒に報告を行っている。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	町で行う会議への参加、連絡などさせて頂き相談指導をして頂いています。	町内の行政や民間などの福祉関係者の集まりに参加し、制度や行政からの情報、医療などとの連携を通し、事業所の運営や地域共通の課題への対応を行っている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	研修、講演などスタッフが参加し、ホーム内で話し合いを行い拘束への理解を深めケアの実践につなげています。	法人内のグループホーム7ユニット合同の研修会があり、職員が参加している。事業所内では特に言葉による拘束がない職員同士でも気を付けあい、気になるときは話し合いを行っている。玄関の施錠は夜間のみ行っている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修・講習に参加し、そのつどホーム内で話し合いを行い虐待のないケアに努めています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在は必要な方はいませんが、今後は必要になる方もいるかもしれないので、研修に参加させて頂き活用できるように心がけます。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	十分に理解、納得して頂けるよう説明をし、契約書、重要事項説明書のサインを頂いています。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	年2回、家族会を行い家族間の交流を深めホームへの意見など言い合える環境を反映しています。	家族の来訪時に話をするほか、年2回の家族会でも利用者の様子を伝えている。事業所便りや利用者の写真を添えた年賀状などでも利用者が役割をもって生活していることを伝えている。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	定期的に月に一度会議が開催され意見などを聞く機会を設けています。	職員が業務の中で戸惑ったり困ったことがないかなど、随時話ができるようにしている。シフトの相談や資格取得の補助など働き方や利用者への接し方まで何でも話し合える関係を築いている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	勤務状況・労働時間を常に把握し話し合いの場を設け働きやすい環境に努めています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	勉強会や研修を設け参加できるよう奨励しケアの実践に取り組んでいます。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム勉強会を開催し職員同士の意見交換、相談する機会を設けサービスの質の向上に努めています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めています。	慣れない環境・不安のないように寄り添い安心した環境づくりに努めています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	個別にお話を聞く機会を設け気軽に意見、相談を言える関係作りに努めています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	介護支援専門員や関係者からの情報を参考にサービスの利用、意見を見極め対応に努めています。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	洗濯物干しやタオルたたみ調理の下ごしらえなど出来ることを職員と一緒にしています。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族への連絡を密にし家族と利用者の絆が途切れることのないように努めています。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	知人など訪問しやすい環境なじみのある美容室に行き関係が途切れないように努めています。	家族や知人の来訪時には居室や居間などで利用者とゆっくり過ごしてもらえるようにしている。美容室や買い物、家族との墓参など利用者の希望に合わせて支援を行っている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の関係を把握し共用の場に来る時間を作り体操やゲームなどに参加して頂く時間を設けています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	他に施設に移られたり、町でお会いした時など気軽に声をかけて頂いたり、挨拶をさせて頂いています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者一人一人の生活を把握し、利用者の立場になり本人の思いを尊重しています。	いつもこうだからと決めつけず、利用者のその時の気分を含め、好きなやり方や自分でやりたいことなど利用者の意欲を大切に支援となるよう気持ちをくみ取っている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	家族からの情報を通じて今までの生活歴、環境を把握し今までと変わらない暮らしが出来るようにさせて頂いています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人一人が、毎日の中で出来ることを把握しケアをさせて頂いています。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	介護支援専門員が中心となり、毎月のフロア会議で意見交換し介護計画を作成しています。	利用者にとって大切な事と、支援する際に必要な事の優先順位と支援方法を検討し、介護計画を作成している。利用者の希望や担当職員からの情報を重視し、定期的に見直しを行っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日の生活記録に記録し職員間での共用、実践に努めています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	当ホームでは、近隣に老健施設がある為メリットをいかし、本人や家族の意見や要望に柔軟な支援が出来るように取り組んでいます。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	毎週金曜日足もみのボランティアの方がこられ利用者とお話しされながら楽しい時を過ごしています。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医の往診、家族、本人の希望があれば、希望の医療機関を受けることが出来ます。	通院は家族対応となっている。通院時に医師に情報提供したり、生活状況等を説明するため職員が同行する場合もある。週2回の訪問看護があり、適切な受診に結び付くよう連携している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	事業所として訪問看護師が居る為定期的に巡回して頂き、利用者の健康管理の相談などさせて頂いています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	病院関係者、ソーシャルワーカーとの連携をし、いつでも情報や相談が出来る関係作りをさせて頂いています。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいます。	看取りケア事前説明書を作成し家族に説明させて頂き、職員間で話し合いを行い共有しています。	入居時に方針を説明しているが、家族や利用者は病院での治療を希望する場合が多い状況となっている。重度化した場合には事業所でできる介護と医療との連携について、病状の見直しなどを話し合い、希望に沿った支援となるようにしている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	研修・講習に参加し緊急時の対応、応急手当の仕方などを学び、ホームの会議で実践話し合いを行い緊急連絡簿を通して連絡方法に取り組んでいます。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防車の訓練、避難訓練は定期的に行い地域との協力体制を築いています。	避難訓練は年2回行っている。事業所は高台にあり、敷地内には法人施設が集約されており協力を得ることができる。地形的に浸水などの心配はなく、非常時には本体施設から職員が駆けつけることになっている。	非常時の訓練を実施しているが、日ごろから防災意識を持ち、高い場所に重いものを収納しない等、事業所内環境の安全点検にも取り組んでいくことが期待される。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	年配者であることを忘れず、プライバシーを損ねないように言葉かけなどに気を付けるように心がけています。	利用者ごとにコミュニケーションの工夫をし、子どもに対するような言葉ではなく丁寧な言葉使いを心がけ、気持ちが伝わるように支援している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者の希望の出来ることは、なるべく希望を聞き本人の思いを大切にしています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員の都合で取り入れることもありますが、出来るだけ毎日を利用者個人のペースで過ごして頂けるように支援をしています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	個人的に理美容の申し出があれば、職員が時間を作りお連れします。衣服など用意させて頂くときは本人の希望を聞き気に入ったものを着て頂くようにしています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者の皆さんと無理なくテーブル拭きなどして頂いたり、毎月の行事の時は美味しく食べて頂くために器や盛り付けなど工夫させて頂いています。	食べるのが楽しみな利用者が多く、職員が利用者が食べたいメニューを取り入れて提供している。誕生日には希望する献立が提供されている。職員も一緒に食べることで会話が弾んでいる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養バランスに気を付けた献立・毎日の水分量を把握し記録をし、食事が進まない利用者にはエンシュアをゼリーにしたりとし提供させて頂いています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後口腔内うがいなどして頂いていますが、拒否される方もいるので、その時その時にあったケアをさせて頂いています。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	夜間帯はベルト帯を使用している方が2名ほどいますが、日中は、ほぼ全員が下着にパットを着用しています。パット交換拒否される方がいるのですが、その時その時にあった支援をしています。	入院などでおむつを使用した場合も、早期にトイレでの排泄に戻れるよう職員が連携して支援している。利用者ごとの尿意や排泄リズムを把握し誘導を行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食材や毎日のヨーグルト、牛乳など提供させて頂いていますが、腹圧がかけられない利用者もいるので下剤でコントロールさせて頂いています。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	職員の都合で取り入れることもありますが、午前中がいいと言われる方、午後がいいと言われる方もいます。本人が入りたい時になるべく入って頂いています。	入浴は週2回実施しており、できるだけ利用者の希望に合わせた時間に支援している。また、気分を変えたい時には隣の老人保健施設の温泉が休日に使用可能であり、希望により公共温泉での入浴も支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	室内の明かりや音に気を付け、夜間眠れないような時はお話をさせて頂いたりとし安心して眠れるようにさせて頂いています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	職員管理です。内服時は名前を必ず確認し一人ずつ飲み終わるまで見守り行き誤薬がないように努めさせて頂いています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	季節よっての外出、天気の良い日は敷地内の散歩をしたり、お誕生会やクリスマス会など楽しんで頂けるようにしています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	買い物などは行きたい日を決め一緒に出掛けたり、地域のおまつりなど地域、家族に協力し頂き出かけられるように支援させて頂いています。	毎月外出行事を実施している。地域の観光地やショッピングセンター、外食などに出かけている。弁当を持って出かけ自然に触れる機会も多く企画し、職員は事前に危険がないかやトイレの状況などを下見し、利用者が安全に外出を楽しめるようにしている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	職員がほぼ預かっていますが、個人で持つことの出来る利用者は自分で所持して頂いています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	毎週家族からの電話がかかって来る方もいます。自由に手紙が来たり、電話でお話するのは自由にして頂いています。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	大きな窓から太陽の光が差し込みキッチンからは料理の匂いがし、窓から外を眺めると広大な畑、近くの木々からはいろいろな鳥やりすながめることが出来ます。	建物は北欧をモデルとした天井の高い広々とした作りで、2階から1階の居間を眺めるなど利用者がみんなで集まったり、気配を感じながら思い思いに過ごすことが可能となっている。採光調整や湿度管理も行っており、温度差が生じないように工夫している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	同じ場所に過ごしていても一人の時間を持てたり、会話をすることが出来たりと工夫させて頂いています。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かし、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居の際に使いなれた物を持ってきて頂いたり手作りの物を飾って頂いたり本人が居心地よく過ごして頂くよう工夫させて頂いています。	居室は広く洗面台も作りつけられている。利用者ごとに部屋に賞状や写真などを飾り、暖かな雰囲気となるようにしている。ドアには鍵がついており、利用者が自分で鍵をかけることができるプライバシーが守られた空間となっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	すべての場所に手すりが付けられ全室温水暖房器、火災報知器、スプリンクラーが付けられ安心した生活が送れるようにさせて頂いています。		